

課題名	10 茶樹病害虫の発生生態の解明と防除法	分類	①																																				
	(1) 茶園のカンザワハダニの薬剤感受性と防除体系がダニの発生に及ぼす影響																																						
試験研究年次	62 ~ 2年 (完了)																																						
<p>I 目的 カンザワハダニの薬剤に対する感受性や防除体系別の発生消長を明らかにし、防除技術確立に資する。</p>																																							
<p>II 試験方法</p> <p>1 薬剤感受性検定 圃場から寄生葉を採集し、ハンドスプレーで薬液を噴霧し、48時間後に雌成虫の死虫数を調査した。 (1) 試験規模 1区 20頭、3区制 (2) 供試薬剤 第1表参照 (3) 採集地 第1表参照 (4) 採集時期 5月</p> <p>2 防除体系試験 (1) 実施場所 場内圃場 (2) 供試茶園 おくみどり / 11年生 (3) 散布量 400g / 10a (4) 処理区構成</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>天敵保護区</th> <th>合ピレ区</th> <th>慣行区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>オマイトE × 1500</td> <td>オマイトE × 1500</td> <td>オマイトE × 1500</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ニフゾランVE × 1500</td> <td>ジブプロラムE × 1000</td> <td>ジブプロラムE × 1000</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アクトランW × 1000</td> <td>ホルテメックW × 750</td> <td>ホルテメックW × 750</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ハタマンSW × 1000</td> <td>ハタマンSW × 1000</td> <td>ハタマンSW × 1000</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トアロ-CTW × 1000</td> <td>ランネットW × 1500</td> <td>ランネットW × 1500</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>アクトランW × 1000</td> <td>マブリンW (ピ) × 1000 ニフゾランVE × 1000</td> <td>エンセタンE × 1000 ニフゾランVE × 1000</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>アクトランE × 2000</td> <td>ロテイ-E (ピ) × 1000</td> <td>アクトランE × 2000</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>テミリンW × 1000</td> <td>シルビ-ワンE × 100</td> <td>アクトランW × 1000 シルビ-ワンE × 100</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) E: 乳剤、W: 水和剤、SW: 水溶剤 (ピ): 合成ピレスロイド剤 (5) 調査項目・方法 各区より、茶葉50枚を任意に採集し、成虫及び幼若虫数の寄生葉率を調査した。</p>				月	天敵保護区	合ピレ区	慣行区	3	オマイトE × 1500	オマイトE × 1500	オマイトE × 1500	4	ニフゾランVE × 1500	ジブプロラムE × 1000	ジブプロラムE × 1000	5	アクトランW × 1000	ホルテメックW × 750	ホルテメックW × 750	6	ハタマンSW × 1000	ハタマンSW × 1000	ハタマンSW × 1000	7	トアロ-CTW × 1000	ランネットW × 1500	ランネットW × 1500	8	アクトランW × 1000	マブリンW (ピ) × 1000 ニフゾランVE × 1000	エンセタンE × 1000 ニフゾランVE × 1000	9	アクトランE × 2000	ロテイ-E (ピ) × 1000	アクトランE × 2000	10	テミリンW × 1000	シルビ-ワンE × 100	アクトランW × 1000 シルビ-ワンE × 100
月	天敵保護区	合ピレ区	慣行区																																				
3	オマイトE × 1500	オマイトE × 1500	オマイトE × 1500																																				
4	ニフゾランVE × 1500	ジブプロラムE × 1000	ジブプロラムE × 1000																																				
5	アクトランW × 1000	ホルテメックW × 750	ホルテメックW × 750																																				
6	ハタマンSW × 1000	ハタマンSW × 1000	ハタマンSW × 1000																																				
7	トアロ-CTW × 1000	ランネットW × 1500	ランネットW × 1500																																				
8	アクトランW × 1000	マブリンW (ピ) × 1000 ニフゾランVE × 1000	エンセタンE × 1000 ニフゾランVE × 1000																																				
9	アクトランE × 2000	ロテイ-E (ピ) × 1000	アクトランE × 2000																																				
10	テミリンW × 1000	シルビ-ワンE × 100	アクトランW × 1000 シルビ-ワンE × 100																																				
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 カンザワハダニの感受性は、トクチオン乳剤、エンセタン乳剤、ホルテメック水和剤に対して高く、地域間差も少ないので、これらの3薬剤は県内茶園のカンザワハダニ防除に有効である。</p>																																							

- 2 ダニの密度が低い夏季（8月）の茶園防除に殺ダニ効果のある合成ピレスロイド剤を使用すれば同時に広範囲の害虫が防除でき効率的でありダニの異常発生（リサージェンス）も回避できる。
- 3 捕食性天敵（ケナガカブリダニ）に対して感受性が低い薬剤を組み合わせた天敵保護区のカンザワハダニの発生は、二番茶期前半（6月上旬）まで慣行区より多かつたが、それ以降の発生は少なく、天敵による抑制効果が大きいことが明らかとなった。
- 4 ケナガカブリダニの発生は県内各地の茶園にみとめられ、春季から夏季にかけて多いが、発生密度は地域間差が大きいことが明らかとなった。

IV 主要成果の具体的データ

第1表 カンザワハダニの死虫率（2年）

（単位：％）

薬剤名	倍数	黒木町 本分	上陽町 久木原	星野村 中渡瀬	八女市 忠見	八女市 岩崎
ジプロム 乳剤	×1000	32	65	70	20	35
	×2000	25	54	55	15	23
トクチオン 乳剤	×1000	100	97	85	90	95
	×2000	95	85	80	83	80
エンセダン 乳剤	×1000	100	85	100	87	92
	×2000	100	80	89	78	85
ボルテージ 水和剤	×750	85	89	100	85	100
	×1500	70	75	82	72	80
マイトサイ ジンB乳剤	×1000	74	85	70	80	75
	×2000	62	72	55	75	63

第2表 カンザワハダニの寄生葉率（2年）

（単位：％）

区\月日	4.16	5.23	6.6	6.25	7.5	9.10	9.26
天敵保護区	4.2	13.4	26.5	15.2	0.0	2.4	3.2
合ピレ区	4.4	17.5	17.3	23.2	0.0	4.9	7.2
慣行区	3.9	19.8	17.5	21.3	0.0	4.5	5.9

第3表 ケナガカブリダニの発生率（2年）

（単位：％）

時期	黒木町 本分	上陽町 久木原	八女市 忠見	八女市 岩崎
一番茶摘採後	15.5	14.6	24.5	55.0
秋整枝前	0.0	0.0	0.0	0.0

注) カンザワハダニ寄生葉に対する発生葉の割合

V 成果の評価と取扱上の留意点

茶園のカンザワハダニ防除の技術資料とする。

VI 今後の研究上の問題点

肥培管理や環境変化が天敵類の発生に及ぼす影響

VII 資料名

62～2年度 福岡県農業総合試験場茶業指導所・八女分場試験成績書